

プルトニウムスポット

プルトニウムスポット ぷるとにうむすぽっと

燃料の製造工程で、プルトニウムとウランの酸化物をそれぞれ粉末にして混合するときプルトニウム粉末に大きな粒子が残ったまま燃料を製造し、原子炉で燃焼させると、プルトニウムはウランより反応率が高いので点状の大きな出力分布（スポット）が生じる。気体状の分裂生成物を予想以上放出したりして障害が予想されるので、現在の製造工程では、混合後さらにすりつぶして、大きな粒子が残らないようにしている。プルトニウム・ウラン混合酸化物燃料（MOX）が軽水炉や重水炉で利用されるようになって生じた問題である。

<登録年月>

1998年02月
